

# 前回の意見の振り返りについて

## 1 札幌市が設置する公立夜間中学の目指す姿

### 【学校の方向性】

- アンケートに答えられなかった人もいるものと考えられることから、開校後にも個別のニーズに対応していくことが大切。
- この学校は開校時の姿が最終完成形ではないので、開校後も実践しながら考えて、常に対応しながら作っていくという姿勢が大切。
- 学校だけでは、対応が難しい部分もあるものと思われるので、外部機関も活用しながら、市民総動員で取り組んでいく姿勢が必要。
- 不登校生徒の中には、家庭に課題がある可能性もあるので「家族への支援」や「家族との関わり」という部分を意識することが必要。
- 家庭環境等も含めて、様々な理由で不登校を経験している生徒がいるので、本人が大人になって学び直しを希望するときに受け止めてくれる学校になってほしい。
- 夜間中学に通う生徒には、「支える」「励ます」という対応が非常に重要であり、また、場合によっては本人に同行する等、積極的に関わっていく必要がある。
- 「はじかれている」「抑圧されている」と感じている人に学びの場を提供し、将来的に社会づくりに貢献してもらうようなことを目指すと良い。
- 車椅子の方も通うことが想定されることから、設備にも配慮が必要。

### 【学びの方向性】

- この学校は生徒に自立を促すことが重要であるとともに、設立される夜間中学は公立中学校でもあることから、札幌市教育振興基本計画に札幌市の教育が目指す人間像として示される「自立した札幌人」にあるように「自立」の要素は必要である。
- 様々な困難を抱えた方に学ぶ楽しさや喜びを感じてもらう必要があることから、札幌市の基本施策に「自ら学ぶ喜びを実感できる学習活動の推進」とあるように、目指す姿には「学ぶ喜び」「学ぶ楽しさ」といった考え方も入ると良い。
- 個々のニーズに対応することも重要であるが、夜間中学には様々な生徒がいることから、札幌市の基本的方向性にも「共に生きる力を培う」とあるように、「共に学ぶ」「協働性」「共生」という考え方も入ると良い。
- 遠友塾においても様々な方が一緒に学んでおり、スタッフも含めた学び合いが実現

され、共に学ぶことが良い方向に働いている。

- 学校は勉強だけするところではなく、仲間づくりや協働することについても学んでいくところ。この学校でも学校行事をうまく活用して、様々な生徒が共生できる学校になれば良い。

### 【外国籍生徒への対応】

- 無料で学べる日本語学校ではなく、中学校等の教科指導を行う学校であることを正しく知ってもらうことが必要。
- 日本に来てよかったのだろうかと悩む外国籍の方もいるので、その方が日本に来てよかったと思えるようにするというのも公立夜間中学の役割である。
- 先日、国から「日本語教育の推進に関する基本方針」が示され、自治体で日本語教育を行うことが義務付けられたところ。日本語教育の全てを夜間中学で担うことにはならないので、札幌市の日本語教育において、どの部分を公立夜間中学が担うのか明確にすべき。

### 【その他】

- 中学校でも様々な不登校への対応をしているが、それでもうまくいかない場合にどのように夜間中学に繋げるかということも考えなくてはならない。

## 2 目指す姿の実現に向けた学校づくりの視点

### 【学びの考え方】

- 言語や芸術活動など、表現することを大切にする学校であってほしい。自分を出しても大丈夫だという安心感が持てることと、自分を出すための技術が身に付くと良い。
- 学び合って育つ、協力しながら学び合っていくことが重要であると考えられるので、学校行事などをはじめ、学校をより良くしていこうという生徒会活動、話合いで合意形成を学ぶ学級活動、外部講師を活用したキャリア教育などの特別活動や総合的な学習は夜間中学においても重要な教育活動だと考える。
- 「基礎・基本の定着」だけではなく、札幌市が掲げている学ぶ力（「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現」「自ら学ぼうとする意欲」）の考え方を入れた方が良い。

### 【外国籍生徒への対応】

- 全く日本語ができない場合に、東京や大阪では3か月集中的に日本語を教える機関がある。その後、更に学ぶため、公立夜間中学に入学することがあるので、そうした外部機関と連携を取れると良い。
- 大通高校にも全く日本語ができない生徒が入学してくるが、日本語をおよそ1～2年程度重点的に学ぶことで、学習についていけるようになる。大通高校ではその後、3～4年程度で高校を卒業している。

### 【その他】

- 仕事で在住している外国籍の方によっては、配偶者や家族の方に学びのニーズがあるが、夜に通えないことも想定されることから、可能であれば、昼間の授業もできると良い。
- 夜間の定時制高校においては、放課後の時間が活用できないため、授業の前の時間を使って、生徒への個別対応を行っていた。夜間中学においても始業前の時間を有効に使うことができるのではないかな。
- 他都市の夜間中学では給食や補食を行っている学校もあることから、可能であれば、家庭的な潤いとしてあっても良い。
- 今回の学校設置にあたって、以下のところに特に期待している。
  - ◆ 少人数教育を実施できる複数教員の配置
  - ◆ 相談支援体制の充実
  - ◆ 希望する方の入りやすいルールづくり
  - ◆ 費用負担を軽減する就学援助の実現